

「川の汚れは心の汚れ」

～きれいな水とあたたかい社会を取り戻す～

1 社会資本の概要

国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所（以下、庄内川河川事務所）が管理する矢田川、庄内川は名古屋市を流れる都市河川であり、都市部にあって河川環境を身近に感じることが出来る場所でもあります。

中でも、庄内川河川事務所が親水護岸を整備した「矢田川子どもの水辺（以下、子どもの水辺）」は、名古屋市内で川遊びが出来る数少ない場所として多くの市民に親しまれており、同事務所が、園児か

ら小学生を対象に開催している総合学習においては、当会が魚類の説明や川に入ってのガサガサ体験のやり方を子供たちに指導するなど、川と触れ合う活動を共にしています。

庄内川・矢田川の床固工や堰に設置された魚道においては、魚の遡上を定期的に調査する一方、魚道の清掃活動と合わせて、名古屋市周辺の子供を集めて魚道を遡上する魚の観察会を行っています。



矢田川子ども水辺 総合学習支援



魚道調査



綺麗になった矢田川（令和6年7月）

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

昭和49年、当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水質汚濁や大気汚染などの公害が顕著化し、深刻度を増していた時代でした。初代会長の丹羽秀義は、「幼少期に魚をつかみ、泳ぐことができた矢田川・庄内川」が、廃液や悪臭で魚も住めぬ「死の川」となっている現実を見て、かつての川を取り戻すべく、「川の汚れは心の汚れ」をシンボルに、次代の青少年にきれいな水とあたたかい社会を目指し会を設立しました。「明るく、楽しく、美しく」

をモットーに、楽しみながら遊びながら力を合わせた活動は今年で50年を迎えます。

昭和50年から50回開催している「釣り大会」は、「食べられない魚釣り大会」「食べられるかも知れない魚釣り大会」と趣向を凝らしたネーミングで、総参加者1万名を越え、釣った魚を食べ、老若男女が集い、庄内川の水がきれいになったことを実感するイベントは、コミュニティが希薄になる都市部において、それを醸成する場として活用されています。



昭和50年代の『川の汚れ』



1号看板設置 昭和51年



50回開催!『魚釣り大会』

矢田・庄内川をきれいにする会 愛知県 名古屋市ほか

3 活動の成果や波及効果等

「川の汚れは心の汚れ」をシンボルに、『次代の青少年にきれいな水とあたたかい社会を目指す』という設立時の目的は、半世紀の活動により、水質は改善され健全な状態に保たれており、達成されていると考えられます。

庄内川河口で実施している二枚貝調査は、庄内川沿川の名城大学付属高等学校の生徒さんと名城大学の学生さんと協力して実施しており、会の活動は若い世代に引き継がれつつあります。

会では、川に興味を持ってもらうための様々な活動を行ってきました。コミュニティが希薄な都市部にあって、多くの市民が“川”に集い、それを醸成する場となった活動は、今年で50年を迎えました。



高校生、大学生ボランティアと共同で実施



河原でバーベキュー!会員の懇親を深める

喜びの声



受賞者

矢田・庄内川をきれいにする会
会長
宮田 照由

コメント

まずは活動開始50年という節目の年に「手づくり郷土賞」を受賞できたことを嬉しく思います。

設立時には“死の川”だった矢田・庄内川も今は少しきれいになってきたのかな…。

企業、地域の人、行政など色々な立場の方々と「対立ではなく対話」を通じて工夫しながら活動をしてきたことが今に繋がっているんじゃないかと思っています。

活動の内容

- 魚類生息環境調査
- 遡上アユ100万匹大作戦
- 水質を知ってもらうための「魚釣り大会」
- 看板「川の汚れは心の汚れ」100箇所設置
- ビオトープの活用・整備
- 庄内川河川事務所主催の総合学習支援

活動の経歴

- 昭和50年5月24日 会発足
- 平成20年 河川功労者表彰
- 平成21年 第11回・日本水大賞（環境大臣賞）
- 令和元年 第20回・中部の未来創造大賞（奨励賞）

所在地

活動主体及び連絡先

対象となる社会資本

愛知県名古屋市西区～北区

矢田・庄内川をきれいにする会
代表者：宮田照由、窓口：小野 天下
名古屋市守山区川西一丁目1304番地
TEL:052-794-3876 FAX:052-796-2344
E-MAIL:yadashounai@gmail.com

庄内川、矢田川

